

旭化成  
陸上部

# おめでとう

延岡駅

## 凱旋 市民が祝福

### 1/4 大六野選手「皆さんのおかげ」



市民らとハイタッチしながら登場



お礼を述べる西監督

第63回全日本実業団対抗駅伝競争大会（ニューイヤ駅伝）で3連覇を達成した旭化成陸上部が2日、拠点とする延岡市に凱旋（かいせん）駆けつけた大勢の市民から「おめでとう」の祝福を受けた。

選手やスタッフら一同、JR延岡駅に到着。万来は午後1時36分、電車で1の拍手の中、優勝旗を掲

げながらその姿を見せ、たなど本当に感じた。この先も期待したい」とあいさつ。読谷山洋司市長は「延岡市民は勇気、誇りをもらった」と感謝。市陸上競技協会の福村正勝会長は「3連覇は簡単なことじゃない。この流れに乗って、



花束を受け取った西監督（左）と大六野選手

「たすきをもろう時はおなが痛いくらいの気持ちだったが、皆さんの応援が力になってラスト勝ちることができた。3連覇できて本当にうれしいと思ってるが、これから気持ちを切り替えて来年の4連覇に向けて頑張っていきたい」と力強く語った。

セレモニーでは、岡富中陸上部員が西監督と大六野選手にそれぞれ花束を渡した。岩崎青奈さん（2年）は「緊張していたが、西監督が優しく受け取ってくれた。おめでとうの気持ちを込めた」と笑顔。甲斐亜希里さん（1年）は「大六野選手は、テレビで見ると、身長も高くて足も長くてとてもかっこよかった。あのラストスパートには諦めない大切さを学んだ」と話していた。

## 大接戦の勝利 喜ぶ市民

### 1/4 エンクロス パブリックビューイング

延岡駅前複合施設

「エンクロス」は1日、連覇を一緒に喜んだ。ニューイヤ駅伝のパブリックビューイングを開き、今年が初開催。アンカー対決で優勝の可能性が高まると、徐々に市民



めて開催されたNY駅伝のパブリックビューイング（1日、エンクロス）

らが集まってきた。大六野選手のスパートに拍手を送り、祈るように見守った市民らは優勝の間は大きく手を広げた。同日の出町の永井盛一郎さん（60）は午前9時のスタート時から観戦。普段から選手たちが雨の日でも気を抜かずに練習する姿を見てきたので信じていた。エンクロスができたおかげでこの瞬間を味わえた。来年も開いてほしい。

エンクロスのイベント・市民活動担当佐藤光さん（25）は「多くの方が優勝争いの終盤、家を飛び出して感動を味わいに来ていただいた。大成功

2019.1.4

日)

2019.1.4

第17143号

(第3種郵便物認可)



東海スイミングクラブのOB会で乾杯する出席者

# 水泳よ、東海SCよありがとう

## OB会に松田丈志さんら約100人

Y4

競泳五輪メダリストの松田丈志さんなど多くの水泳選手を育てた延岡市の東海スイミングクラブのOB会が2日、同市のキャトルセゾンマツイで開かれた。

同クラブを支えてきたが、施設の老朽化や指導者不足などを理由に昨年9月から休止している。OB会は今年設立40年目を迎えることなどから開催。ビートスイミングクラブ(大門町)に移った現役生やOB、OG、その保護者ら約100人が出席して40年の歩みを振り返った。

「きょうはたくさんの方が集まった。昔のことを話しながら楽しく盛り上がりつつ、同水泳協会の後藤啓朗会長の音頭で乾杯した。出席者は在籍当時の思い出話や近況を話すなど歓談。会場の各所で話が盛り上がり、上田耕市さんの発声による万歳三唱で締めくくった。

松田丈志さんは「自分分は水泳に育てられ、今も仕事の真ん中に水泳がある。現役の子どもたちには水泳を好きになって水泳を通して成長して欲しい。」

久世さんは教え子らとの再会を喜びながら「水泳の楽しさを伝えたいという初心を忘れずにやってきた。この会がまた水泳のために頑張りたいという気持ちにさせてくれた」と話した。